

ゆめサロン

平成二十六年
三月十四日
No. 233
吉賀町ゆめサロン

春の足音



寒い日々ですね。と挨拶してしましたのに、明るい日差しに誘われて、そこを歩いていきますと、下手な声で驚がなきました。「ああっ！待ちに待った春が来たんだあ！」と心が躍りました。また新しい春を迎えることが出来たという嬉しい気持ちと、仲良く病と闘ってきたのに何人ものかたとお別れした淋しさで……私だけこうしていることの申し訳ない気持ちが入り混じり、複雑な気持ちになり春愁を感じます。皆様大事な日々を大切に過ごしましょうね。

仲間の会



以前お知らせしましたが三月二十九日に講演会が有ります。三月のサロンにかえらせていただきます。

おしらせ



島根県健康福祉部健康推進課、がん対策推進室より、学研まんがでよくわかるシリーズ8「がんのひみつ」についてこの度、がん教育資料として、サロンに送っていただきました。がん教育活動等の参考書として活用下さい。必要な方はお申し出下さればお貸しいたします。電話 78-0203 まで

心のふやみ



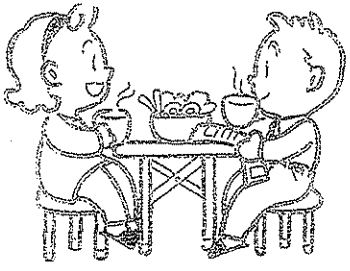
この冬が早く終わってくればいい、と贅沢とは思いますが健康に、してもらったのに心の健康が保てないこの頃の私です。大切な沢山の友達は、私より先に遠いところに行ってしまった。残された私はその方のぶんまで大切に生きなくてはいけないの

に心がくじけそうです。花が咲いて、心が晴れ、春がくるのを待つこの頃です。

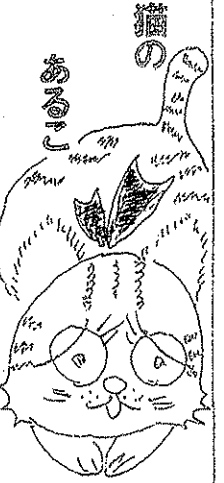


ノートルダム清心理事長
渡辺和子書

『面倒だから、しよう』 このなかには、私が考えさせられる事がいっぱいあります。「ごちかごち」よりもいつもにっこり笑う事人の身になって思うこと自分の顔を恥じないこと先ず心にとめて実行にうつすことを「れからの課題にしよう」と思いますが、私にできるかなあと早くも弱気な私です。

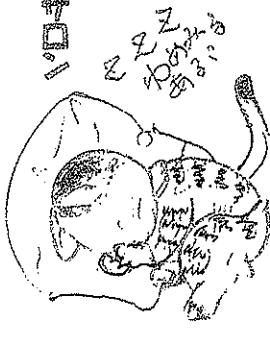


猫の



ある夜に私がコートを着て出かけようとしたら、素早く外に出て走って私を追い越します。「だめ！帰りなさい！」と追い返すと、いったん走って帰りがどさきからじーっと睨むように見えて、私が目を離すと、すつとんでき私を追い越すのです。そんなあることを見ると出かけられずに帰ってコートを脱いで置くと、その上に座っているのです。まるで、私を置いていかないで！と言っているようなのです。そんなあることをおいて家出することもできません。妹に話すと、「あるこは、かすがいだね」と笑っていました。

三月のサロン



仲間の会の講演会にかえらせていただきます。みなさんのおしらせをお待ちしています。詳細は後日

ゆめサロン

平成二十六年

三月二十日〜二十三日

便り

吉賀町ゆめサロン

NO 234

もう三月

明かりをつけましょ雪洞に

この曲を幾度聞いたことでしょうか。

大好きな、歌詞とメロディです。今年

もこの曲を聞いて元気で生きている

喜びを実感する私です。

皆様もお元気で過ごさしのことと思

います。

春いちばん



外は風がひゅうひゅうひゅう唸ってい

ます。温度も少し下がった今日三月

初め、まだ固い梅のつぼみのついた

枝を取ってきて一輪挿しにいられてみ

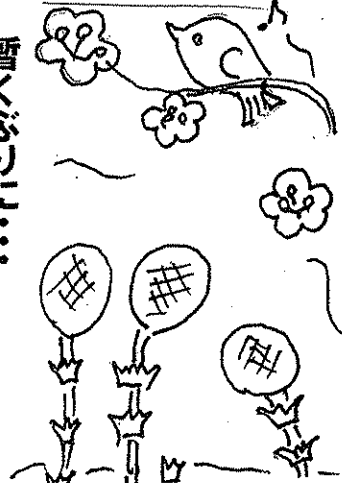
ました。春一番の風は南風でしょう

が今日二日は北風が吹いて寒い日で

す。春はまだ遠くのようにです

でもやがて春が来ます。裏山では幼

ない鶯の声が聞こえます。



暫くぶりに...

少しパソコンという私のおもち

やから離れていました。が三月のサロ

ンがないというとも寂しく、皆様

を思いながら開いてみました。と言

いますのも、私は血圧というものを気に

したことがないくらい正常だったの

ですが、ある日の夕方から胸が高鳴る

様な違和感を味わい、気持ち悪くな

って、血圧計をもちだして計ってみま

した。なんと！私の見たこともない数字

に、目を疑い、何度も何度も計って

みました。変わりませんか??。信じる

しなくてその夜は寝たのですが、夜

も思苦しくなったりして私の頭から

血圧という言葉がはなれませんでした

た。やはり、主治医の先生にみて

頂こう。と思いつながらこのくらい

のことで病院に行つては行けな

い。いや乳癌の上に次の病気が出

るのも怖い、でももう高齢だから

と悩みながらお医者さんにたよる

しかない私でした。結果は、しばら

く時間を決めて血圧測定を、と仰

せつかり、今実行中です。血圧とは

計るたびに変わるのだなあ！と楽

しみにやっているとこです



暖かい風が吹いてくると心が

ウキウキするのは人間の私とおな

じのようです。昨日は蔵の通気の

為に戸を開けていましたら、そこ

で走り回っていました。ふとみ

ると!!!かなり大きいネズミを

もってかえり追いかけて遊んで居

ました。いつもの通りに私は小言

をいいます。ちゅうちゅうさんを

連れて帰つたらいいけんでしょう！と

いうと逃がしてしまいました。それ

から暫く落ち着かないある子は粘り

強く待っていました。が私の蒲団に

いつものように入つてねていて、あ

げがた四時半ごろ、胸の苦しさに目

覚めたわたしの胸の上からじつと、

私の顔を見つめていたのです。結局

はネズミはつかまらなまままだた

ようです。妹が言ったのを思い出

ます。お姉ちゃんの猫らしいと。これ

は娘が岡山から連れて帰つたねこな

のに.....。そういえばその娘は

また猫を二匹飼いはじめたように毎

毎晩、写メを送つて来ます。また連れ

て帰つたらどうしよう。と心配して

いる私です。

四月のサロン



四月十九日の午後一時半からい

つもの場所で行ないます。歌つて語

つて楽しい時間を過ごさしませようね

ゆめサロン

便り

平成 26 年

4 月 4 日

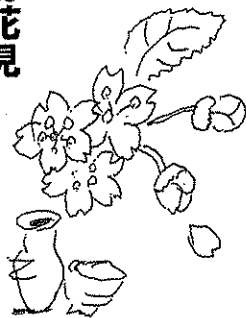
吉賀町ゆめサロン

No. 235

世ははなぞかり

さくらが満開でこのまま見ているだけではため息がでるような、せつない様な気持ちになります。でも命をもらってこのまま過ごすのは、申し訳ないと思いつつ、暫く会っていない皆様お元気でお過ごしでしょうかとゆめさんを楽しみます。お元気であるように祈りながらパソコンにむかいます。

ミニお花見



うららかな天気と満開の桜に誘われてお花見をしなきゃ勿体ないと思いい、おむすびと茹で卵と焼き魚、ウイナー、あすつことという菜の花のような野菜を茹でてマヨネーズをつけてこ

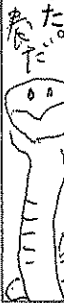
れがお弁当、近所の友達を誘い、三人でお花見としゃれてみました。風もなく、暖かい日で、そういえば今日は四月三日、昔子供のころ、母にお弁当をつくってもらい、一日外で歩き回っては食べたことを思い出しました。あちこち悪いのは年のせいでしょう。こうして生かして頂けることを感謝したお花見でした。

ある日のテレビ



ホスピスのことについて言っていました。怖いものをみる気持ちで眺めていたのです。そこでの話では、ホスピスというのはだてがなくなつてからはいるところ、と思われていたら間違い。

そうではない、と言っていました。死と向き合うと言う事は生きること、といいました。難しいことはわからないので見るのをやめました。



講演会



「苦勞様でした。私はその頃体調を悪くしまして、病院に行つて診察を受けていました。自分らしく生きるテーマだったようで、その後、メンバーの方からの電話を頂き、ました。四月の定例会で報告をしていただければ嬉しく思います。

ある日は今



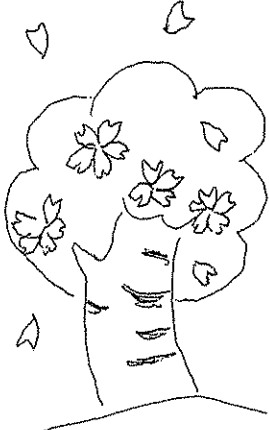
春が来て体も心もふわふわして嬉しくてならないようです。いつか書きましたが白い色が汚れてグレーになったでぶい猫はやはり泥棒猫で、あるこの隙を狙つてえさを食べて行きます。ある日は飼い主の私が炬燵にはいると炬燵板の上に座り対等を装います。特に夫の時にはそうして新聞でも広げるとパンチを仕掛けて闘いを挑みます。庭の椿の木の下に座つていて、上から椿の花が落ちてくると素早く押さえるのです。まさに待ちぼうけ、ですね。桜の花

が風に乗って散つてくると追いかけていく姿はいくつになつても子猫のようです。そんなある日はお客さんが大好きです。見に来てやって下さい。

嬉しいおたより



この前郵便受けを見ると、万年筆で書かれた達筆のおたよりがありました。大田のほうのがんサロンの方から、ゆめサロン便り最高です。という書き出しで、ゆめサロン便りをたのしみに見て下さっている事などを書いてくださっていました。褒めて頂いて、とてもうれしい気になるとともに、お粗末すぎて恥ずかしくもなりました。皆様からの原稿をお待ちしています。



ゆめサロン

便り

平成 26 年

4 月 6 日

吉賀町ゆめサロン

No. 238

春ですわ



でも、今朝は遠くの山は少し白く見えます。春は気温の差が大きく、自律神経の乱れから体調を崩すことも多いそうです。そういう私も、何かしやんとしない気分です。皆様お大事になさってください。

言葉の使い方



この前のことです。

テレビで演歌歌手の方がとても上手にもそのままをされたら司会のかたが感心されて訓練されたのですか。といわれました。訓練なんて(笑い)お稽古よね。という、夫が、レッスンというんじゃないかなあ。といい

わからなくなりました。

ちよっとしたことでも引かかる私

は用無しなのかもしれません。

さあ私もパソコンのお稽古をしよう。いや訓練かなあ、これもちがう。

レッスンしよう。練習かな。辞書をひたら、学問、技芸、スポーツなどを何

度も繰り返し習い行う事。稽古、訓練

レッスン、トレーニング。とあります

た。どれでもいいんだ、と納得しまし

じっけんた

あいうった



これは孫と遊んだ時習ったじゃんけんで、以前書いたとき勝負がつくまで、じっけんたと繰り返し返すというのは間違いらしい。あいでしょと言っていたが時代と共にではなく、場所的だろうかとそんなことまで考えるのは私が暇人ということだろうか。四歳の

孫がいうには、ばあばってお婆さんみたいだねえ。

というのには意外だった。まだ若いと思っていたが、やはりそうみ

えるんだなあ。これも教えられ

るわたしである。何はともあれお祖母ちゃんらしいお祖母ちゃんに

なるう。と思つこの頃である。

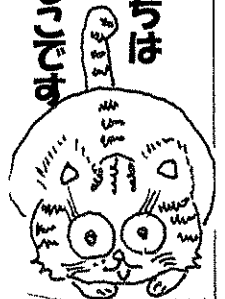
散歩中に



歩いていると色々な発見があります。あらあこんな長く伸びたつくしが……。ここには黄色いタンポポがいっぱいある。それはまるで外国の絵本のようにです。今まで何をみていたのでしよう。忙しくて走りすぎた人生だったのでしようか。友達と話しながら、楽しい時間をすごします。

こんじきは

あるんです



ある子の年齢も進みましたが幾つでもいいです。としては関係なく毎日の生活を楽しんでいきます。この前はヤモリをとってきて家にはなしておいたら、飼い主の怒ること、そんなに怒らなくてもいいのに。

飼い主はテレビの動物番組を見せられます。そんなときは変なものをとってこない事をよく知っているようです。そんなあるこは飼い主の友達つまりいつも来て下さるお客さんが来られると必ずでむかえて、愛想をしますが、その方はたまたまだろう……。と中々喜んでくれません。あるこの気持ちをわかって欲しいです。



ゆめサロン

便り

平成 26 年

4 月 10 日

吉賀明ゆめサロン

No.237

こんにちは

皆様お元気でお過ごしのこと
と思います。



春になったと思ったら色々な花が次々と咲いて、季節が一気にすすんでいきます。桜吹雪舞い、春霞がたなびき菜の花が一面に咲く中で、すっかり上手に歌えるようになった鶯が行く春をおしんでいるようです。元気で生かして戴く喜びを感じるこのごろです。



呆れます

先日のことですが、お風呂にはいつていますと、いきなり蛇口のカランが浴槽の私の足の上に落ちてきました。私と同じに年数が経って、腐食

したのでしよう。早速業者の方に電話して次の日に来て頂きました。以前からお世話になっているいい方です。「すぐ代えてあげますよ」といわれて上等なのがいいかといわれるので、

「そんなに上等でなくてもいいです。まあ私くらいのにして下さい」というと早速帰られて部品をもって

こられて取り付けてくださいました。ところがどうでしょう。私どころか上

等で値段もいいのです。私くらいにしてくださいと言ったのに、といって

気がつきました。そういわれて安っぽいものにされるわけないですよ

ね。その時大工さんも仕事しておられたのでさぞ可笑しかったことでしょう。

う。ピンクの浴槽にピンクの壁と床、真新しい蛇口、そこに入っているのは

この私です。アンバランスですが、私の言い方が悪かったのですから仕方

ありません。反省している私です。



春の日の気分

どうも一度病んだ経験を持つ私は不安定です。頭がふらついて、自由に活動するわけにはいきません。かといって国の医療費を使つて治そうなども思わないけど、これ以上、人に迷惑をかけないで生きていきたいと思うこの頃です。今日も桜が綺麗です。



動物が体調が悪い時

何も食わずにじっとして治すというけど、どうもそれが本当のようです。うちの猫をみていますとそれを感じます。かなり前のことになりましたが、誰もいないところにおいて、じっと瞑想にふけっているのが動物病院に連れていきました。無理矢理寝かせられ、レントゲンをとって下さり、首根っこに注射してくださいました。お陰で

家についたころには元気が出てバスケットから出すと大急ぎで

猫トイレに入り、真っ黄色なおしっこをするので餌のキャットフードを食べ始めたのです。お医者様に感謝

したことは言うまでもありません。この時払ったお金は一万七千円で

した。健康保健に入っていないからです。その後は、何も食わずに、

独りでに治しているようです。



お薬

高いところをみて、小さい声で「やあ」とすぐにだいて挙げてやりますが、今朝は虫の居所が悪かったのか、あることが怒って走って逃げてその後機嫌悪いから具合が悪いかなど思います。心配は絶えない飼い主です。

ゆめサロン

便り

平成 26年
吉賀町ゆめサロン
4月13日

238

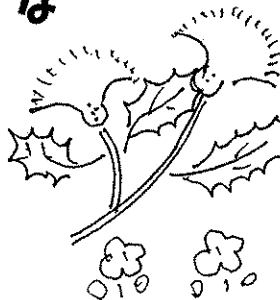
春の日に

皆様、お元気で春を満喫しておられることと思います。



ほんの近くで鶯が鳴いているのにみつけることができないのをもどかしく思いながら、もしかして幸せというものもこれと同じかなあ、と、くだらないことを考えたりしながらポロポロと一点を見つめていたりします。春真つ盛りです。

野のはな



友達とウォーキングの途中でふとそばに目をやると名前も知らない薄紫の可愛い花が沢山ありました。友達がいうには、色の白い人がこん

な色の着物を着るとよく似合うよ。

といつくしむように触っていました。

こんな小さな綺麗なはなに目を向けることもなく突っ走ってしまったことを思い反省したウォーキングでもありました。

強弱でいううね



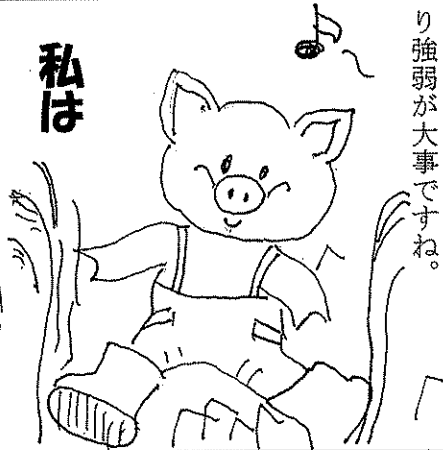
友達からのメールにあった言葉です。いつも忙しく働いている友達がこういつてくれたのは私の体を心配してくれての言葉でしょうか。世は三寒四温の日々で私の体もよくなったりそうでもなかつたりですが、強弱という言葉に勇気を貰いました。

私はパソコンにあやつられて苦勞しながらも楽しむ日々です。そううつていないのに文字が判断して、勝手に出るし、保存しておいたのにそのとうりに出てくれない、と孫に文句を言いうと、それは使っているこちらが未熟なのかもしれないから色々勉強して

みようね。といった孫は成長したものだ。と感心する私です。

ばあちゃんあんたが未熟なんよと言わなかったのはえらい、やはり強弱が大事ですね。

私は



失礼でした

近所のかたと春の野原を歩きました。と枯草の多い土手道がある二人の背中をてらしてくれま

前を行く私は、調子に乗って話しながら進むのですが気がつくとも、相手の方の声もありません。振り向くとかなり後から笑いなながら、危なくて付いて行かれないといわれましました。前を行く私が枯れたすきをつかまえては離すから、た

あーんげす



ばになってうしろを来られる方に当たるのでした。なんと自分本位など呆れる私を許して下さるやさしい方に感謝した私です

皆様お元気で過ごすごですか。

猫のあることです。このところ春の光が暖かく寝てばかりの私です

この前の夜のことでした。飼い主が外に向かってさけんでいるのです。ある子帰らなさい。とでも私は飼い主の後ろでじつとすわっているのに何故か飼い主は叫びます。閉めるよ。と。そとにいるのは真つ黒な野良猫なのに。

ようやく私がいることに気付いた飼い主は喜んで私の大好きな鯉節をくれました。お蔭で真つ黒い猫に認められずにすみませした。慌て者の飼い主です。



ゆめサロン

便り

平成 26 年

4 月 20 日

吉賀町ゆめサロン

No. 239

四月の

サロン



三月は仲間の会に出席すること
でゆめサロン独自の会がなかった
ので、みな待ちに待った集いでした。
春の花があちこちに咲き、あの美
しかった桜は葉桜になりかけて、幾
つになっても春は希望を持たせてく
れます。

楽しい時間の始まりです。

お茶を頂きながら



いつもの経過報告に、みな聞き耳
をたてます。やはり、サロンのない間
は誰に話すこともなく自分の中に秘
めていたのは私だけではないのかも

しれません。誰かに話してみたいし老
化かもしれないし、と思った事を話し
ますと、「老化は誰もが通る廊下」と話
して下さったのはいつも本を読んで
知識を下さるかたです。

やはりこの場ではなすが一番だと
思います。♡♡♡

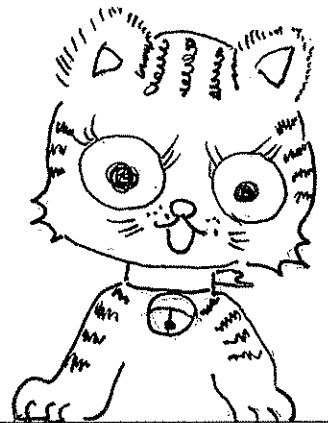
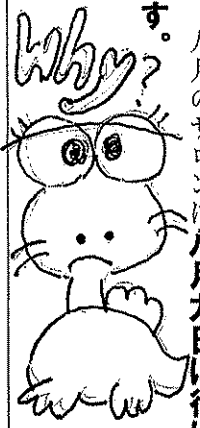
仲間の会でのお話しは、生きること
は目標をもつてつきすすむこととはな
して下さったという事を聞き改め
て自分を反省した私でした。六日市病
院の臨床心理士の岡田先生もはじめか
ら、笑顔で見守って下さいました。

そしていつものように、歌いたい歌を
リクエストさせて頂き下さり、いい気分
なつて歌いました

予定変更



保健師さんより提案頂き八月のサ
ロンの日がお盆と重なるので八月九
日にしようということにきまりました。
た。八月のサロンは**八月九日**に行い
ます。



失礼しています

Energy

みなさまお元気ですか。あるこ
はシニア猫ですが相変わらず色ん
なことに興味があり楽しく暮して
います。春になり色んなことが違
つてきてたのしいので時々はめを
はずします。

この前飼い主たちが向こうの土
手にモミジの芽がいつぱいでいて
るので行ってみようと話していま
した。これについていけない手は
ありません。かいぬしたちは完全
に装備ですがわたしには関係ない
ので気付かれない様についていき
ました。そこは、春がいつぱいのま
さに春の野原です。飼い主は
♪ 春を愛する人は心清き人。と

と気持ちよさそうに歌ってしまし
た。
五百メートルくらい歩いたかなあ
モミジを見た飼い主の歓声が聞こえ
ます。素知らぬ顔でそばによつてみ
ていました。その時飼い主の驚いた
こと！あるこも来てるよう！。ある
こは飼い主に喜んで貰い得意になつ
て温かい日差しの中でごろんごろん
ところがっていました。

これからは一人でもここにこよ
う。と思ひながら、前にも飼い主二人
が歩いて出かけるときにはよくつい
て行った事を思い出しました。失礼
な人が、犬みたいな猫だといいまし
た。この頃時々真つ黒な、ずんぐりむ
つくりの野良猫が家に入ってくるの
で安心は出来ません。飼い主がかわ
いそうだからと首輪をはずしてくれ
たのに飼い主の娘が、野良猫みたい
といたのでゴールドの首輪をかつ
てくれたのです。一段とかつこよく
なりました。見に来てください。

原稿募集します

